

【鷗外は、明治の現實(左圖)に、「様式(型E)⇒現實に主題的完成」(右圖)を築かんとした】⇒2頁圖

明治の現實・・・鷗外曰はく:「西學の東漸するや、初その物を傳へてその心を傳へず、學は則格物窮理、術は則方技兵法、世を擧げて西人の機智の民たるを知りて、その徳義の民たるを知らず。況やその風雅の民たるや。是においてや、世の西學を奉ずるものは、唯利を是圖り、財にあらでは喜ばず」(『しがらみ草紙の本領を論ず』より)と。

漱石はかく言つてゐる。「外發的で皮相、上滑りな文明開化」と明治の近代化を批判し、近代化を「和魂洋才」などと讚美してはゐないのである。

〔明治:文明開化(西歐化)による現實的混亂(下圖)〕

*「明治日本の現實がその作家たちに美的完成を許さぬほど混亂してゐたといふ事實を、ぼくたちはまづみとめてかからねばならない。存在そのものが混亂していたばかりではなく、意識も、意識と存在との關聯そのものも、ほとんど收拾つかぬほどの混亂を呈してゐた。(『急進的文學論の位置づけ』P297)

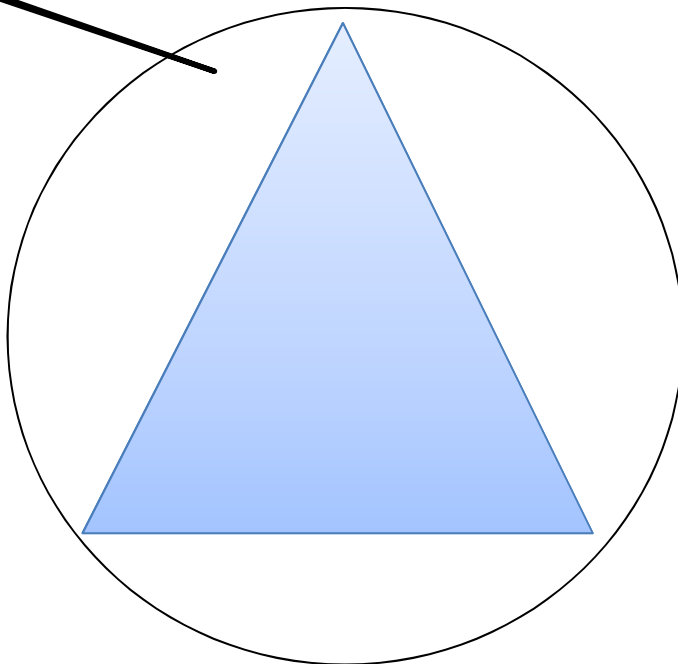
*「なまの素材としては混亂してをり、なんの意味をもたぬ現實(明治)に主題的完成を與へるのが文學の意圖」(『急進的文學論の位置づけ』P297)。

*「素材のままの現實(明治)に様式を與へなければならぬ。それが藝術家に課せられた任務」(『永井荷風』P220)。

・・・鷗外に於ける「様式(型E)⇒現實に主題的完成を與へる」が、P2圖の「われわれが敵(自己を超えたる場:C)としてなにを選んだかによつて、そしてそれといかにたたかふ(宿命/自己劇化)かによつて、はじめて自己は(創作對象に)表現せられるのだ」と言ふ事になる。そしてその様式(型E)が、「歴史小説・史傳」と言ふ事なのである。

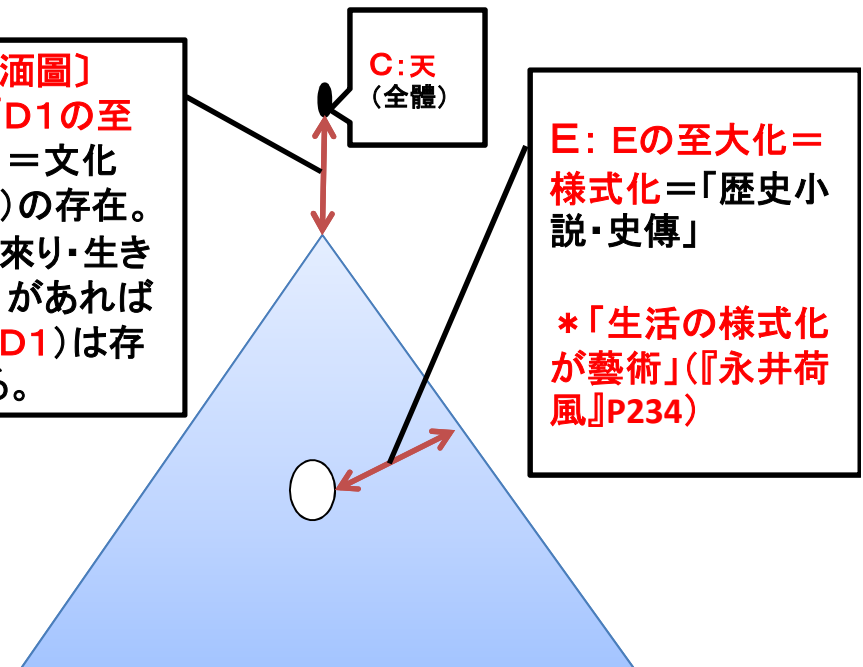
〔沈湎圖〕

D1の喪失はEの喪失。即ち文化の喪失＝型の喪失＝物・言葉との附合ひ方の喪失・・・
「野蠻」⇔文明



〔非沈湎圖〕

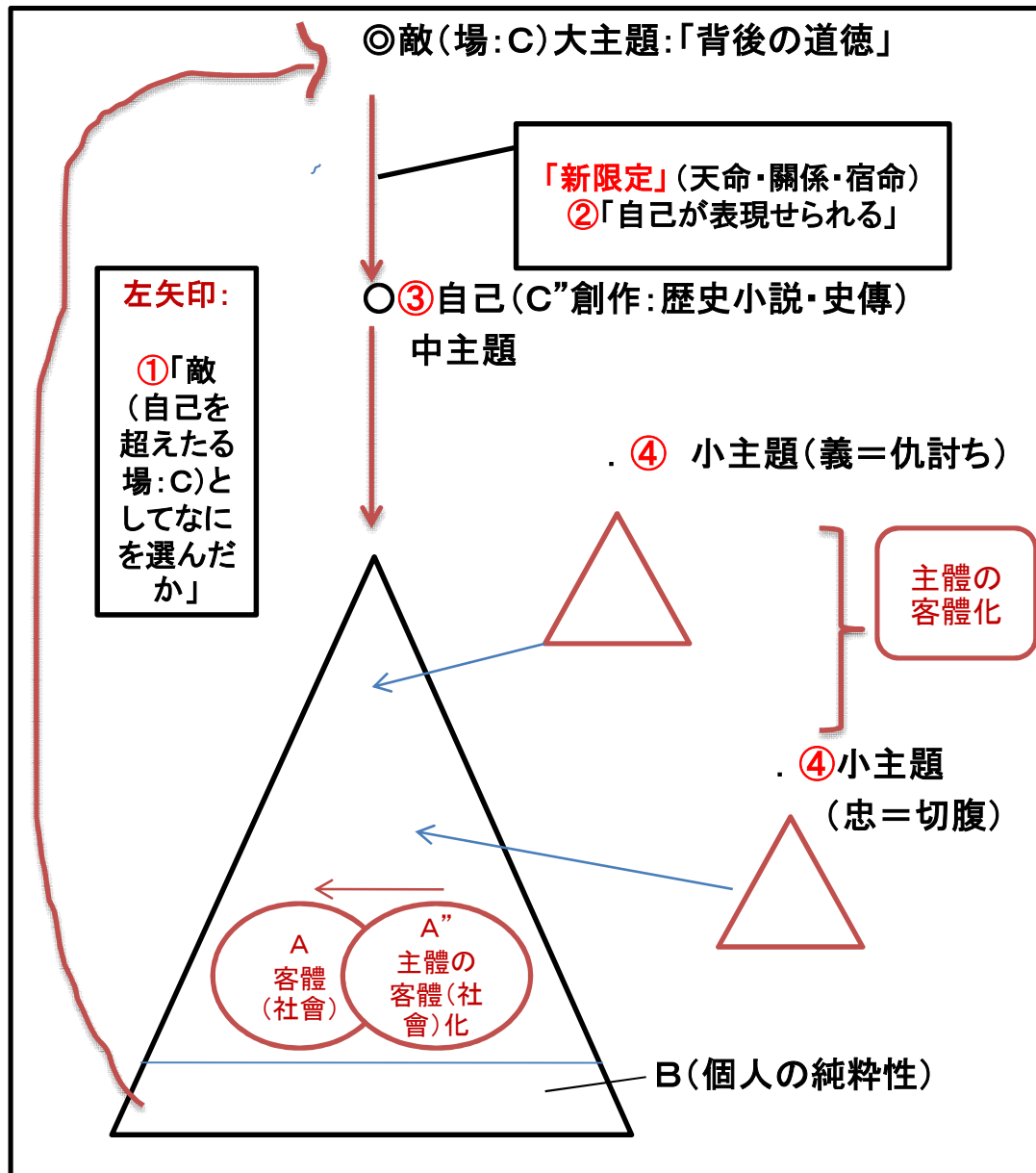
D1:「D1の至大化」＝文化(關係)の存在。型・仕來り・生き方(E)があれば文化(D1)は存在する。



E: Eの至大化＝様式化＝「歴史小説・史傳」

*「生活の様式化が藝術」(『永井荷風』P234)

《本文9頁》:敵(自己を超えたる場C:例「天」)⇒關係・宿命(D1例:天命)⇒自己(C")の活動(例:鴉外「歴史小説」)・・・以下構圖の、「完成せる統一體としての人格」論(テキストP10圖)、及び演劇論(テキストP11圖)との相似形に留意されし。即ち①⇒②⇒③⇒④の流れに。
(『自己劇化と告白』)



* 左圖を詳細に記すと、鴉外の場合は以下の通りとなる(拙文『口邊に苦笑』参照)。

大主題(C)の發見「背後の道德」⇒天命・宿命・新限定⇒中主題(C"文學:歴史小説・史傳の創作)⇒小主題:客體化(義=仇討ち=『護持院原の敵討』・忠=切腹=『堺事件』・孝=『高瀬舟』・全般=『渋谷抽斎』等々の創作と言う能動となる。

* それぞれの大主題(C)の發見⇒中主題(C"文學:歴史小説)の創造⇒小主題

・漱石の場合は、
大主題(C):「背後の道德」⇒天命・宿命・新限定⇒中主題C"「自己本位」(彼我の差に踏み留まる?)⇒小主題(『私の個人主義』・各小説他)。

・ルソーの場合は、
大主題(C):「神」⇒神意・宿命・新限定⇒中主題(C"『告白録』)⇒小主題(神・C:「思想に自己を賭けた」描写 P414下)

・フローベールの場合は、
大主題(C):夢想(理想人間像)⇒神意・宿命・新限定⇒中主題(C")近代自我(個人主義)否定⇒小主題(『ボヴァリー夫人』他。(神・C・夢想「思想に自己を賭けた」描写。しかし、夢想は作品には登場しない)

・ハムレットの場合は、
大主題:先王の亡霊(C:王權神授)⇒君命・宿命・新限定(王權奪還「關節を治す」)⇒中主題(C"):復讐⇒小主題(各章:「めまぐるしく行動しながら、意識の世界では(敵・新限定から)一歩も動かず」)

・二葉亭の場合は、
大主題(C):「國家」⇒國命・宿命・新限定⇒中主題(C"國土として活動)⇒小主題(洋行)

・恒存の場合は、
大主題(C:絶對・全體)⇒關係・宿命・新限定(誠實)⇒中主題(C"「關係と言ふ眞實を生かす」フィクション):⇒小主題(文學評論・演劇・政治論)

・チエホフの場合は、
大主題(C):「空家(神不在)」にたへる⇒宿命・新限定(「無執着」「底意のない眼」)⇒中主題(C")近代自我(個人主義)が自己解釈「獨り合點」する意識(D3)を「在るがままに描く」⇒小主題(各戯曲他)

「われわれが敵（自己を超えたる場：C）としてなにを選んだかによつて、そしてそれといかにたたかふ（宿命/自己劇化）かによつて、はじめて自己は表現せられる（創作対象に）のだ。…」(『自己劇化と告白』)⇒
 圖解次頁

各文人別 「われわれが」	大主題（C）の発見： 「敵（自己を超えたる場）」	「新限定」 （天命・関係・宿命） 「としてなにを選んだか（宿命選擇）によつて」	中主題（C” 文學）の創造： 「そしてそれといかにたたかふ（宿命/自己劇化）かによつて、自己が表現せられる」	小主題の創作 「表現せられる（創作対象に）」即ち「現實的客體化」
森鷗外	「背後の道德」	天命（儒教道德＝至誠・武士道）	歴史小説・史傳	義＝仇討ち＝『護持院原の敵討』・忠＝切腹＝『堺事件』・孝＝『高瀬舟』・全般＝『渋江抽斎』等々
漱石	「背後の道德」	天命	「自己本位」 （彼我の差に踏み留まる？）	小主題（『私の個人主義』・各小説他）
二葉亭	「國家」＝Cの代はり	國命	國士として活動	洋行
ルソー	「神」	神意	『告白録』	神・C：「思想に自己を賭けた」描写 P 4 1 4 下
フローベール	夢想（理想人間像）	神意	近代自我（個人主義）否定	『ボヴァリー夫人』他。（神・C・夢想「思想に自己を賭けた」描写。しかし、夢想は作品には登場しない）
チャーホフ	「空家（神不在）」にたへる	「無執着」「底意のない眼」	近代自我（個人主義）が自己解釈「獨り合點」する意識（D 3）を「在るがままに描く」	各戯曲・小説 他
ハムレット	先王の亡霊（C：王權神授）	君命：王權奪還「關節を治す」	復讐	各章：「めまぐるしく行動しながら、意識の世界では（敵・新限定から）一步も動かず」
恆存	絶對・全體	誠實	「関係と言ふ眞實を生かす」＝フイクション	文學評論・演劇・政治論 他